

# 素材感を前面に 永遠に完成しない家

北区山川邸



6

## スキップフロア

中2階といった半階分ずらして部屋をつくる構造のこと。

左ページ写真

左／寝室やバスルームのある中2階から見上げるとずいぶん高いところに天井が。右／窓から差し込む光が室内を明るく照らします。あんまり明るいので「明かり消し忘れたかな?」と思うことも。窓ガラスは熱効率の良いものを採用しています。

右ページ写真

スギ床の広いフロアはもちろん床暖房完備。床暖房のお湯は都市ガス発電システムの熱を利用して暖められます。他にも、屋根の上には太陽光発電パネル、家の裏には雨水タンクなどなど、たくさん装備されています。

この家の主、山川さんは「この家づくりで3年、遊び尽くした感がありますね。」といっています。

はじめは住宅メーカーの規格ものも見ていたようですが、なかなか理想の家がピタッと規格に収まりませんでした。そんな時、バラバラと見ていた住宅雑誌に自分のイメージに近い家が紹介されており、その家の設計士さんに連絡。するとその設計士さん、

階段を上がると、ひとつの大きな空間に出ました。高い天井。所々に見える柱や梁。この空間の中にリビング、ダイニング、キッチンがすっぽりとおさまっています。ダイニングはリビングから少し段のあるスキップフロア<sup>※</sup>になっていて、ダイニングテーブルの上にはこれまた開放的なロフトがあります。そうすることで、このダイニングは開放感がありつつも心地よい包容感のある落ち着いた空間になっています。そしてこの大きな空間の中に身を置けば、誰もがお互いの存在を感じ、時間と生活を共有することができるのです。

建替え前、ごく一般的な木造モルタルの家に住んでいた山川さんご一家。部屋が細かく分かれた家の中で、ご家族3人、一日の内でもっとも長い時間を過ごしていたのがダイニングだったといっています。客人を招いての食事も多いという山川さんご一家が、この大きな空間のある家を建てたことは、ごく自然な選択でした。

山川さんの家にほど近い学校の先生をしていて、週に2、3回はこちらに来ていたということで、山川さんはなにかしら縁を感じたといっています。設計士さんに会って家のことをいろいろ話すうちに、設計料など少しお金がかかってもそれはそれで面白いかな、と思ひ、ここから山川さん、設計士さん、工務店、三人一組となつての家づくりが始まりました。



7